

京都市北図書館だより



# むらさきのつつしん

テーマ

広がる古典の世界

第25号

2023年10月発行

暑い夏が過ぎ、だんだん夜も長くなってきましたね。本を読むのにもいい季節です♪  
今回のテーマは、“**広がる古典の世界**”です。一度は目にしたことがある古典文学。  
すこしカタイ感じがすると思って読んでいなかったキミ!安心してください!  
今回紹介するのは古典文学をベースにした物語や入門書です。  
まずはこれから読んでみませんか?

## 『神様の御用人 1～10』

浅葉 なつ / 著

(KADOKAWA 2013～2021)



## 『おちくぼ姫』

田辺 聖子 / 著 (KADOKAWA 1990)

※カバーの絵柄は鯛かまわめてぬぐい柄を使用しています。

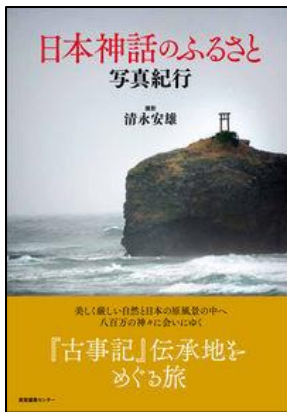


「古事記」「日本書紀」を記紀という。  
教科書で見たことがあったりなかったり。  
でも「いなばのしろうさぎ」は知ってるかな？  
古事記には日本の神様のエピソードが書かれているのです。  
「神様の御用人」に出てくる神様の話は読みやすく、現代に神様が出発しています。  
お茶目な神様、気難しい神様……。  
原書だと難しい神様の名前も親しみが持てる一冊です。

「落窪物語」は、今から千年前に書かれた、いわば日本版シンデレラです。  
いじわるな継母からひどい扱いを受けている、美しく気立てのいいおちくぼ姫。  
イケメン貴公子と出会いますが、その恋路は前途多難。  
平安時代の日本が舞台なのでドレスは和装、お城での舞踏会はお寺へのお参り。  
その違いを見つけながら読むのも楽しいですよ。

## 『日本神話のふるさと写真紀行』

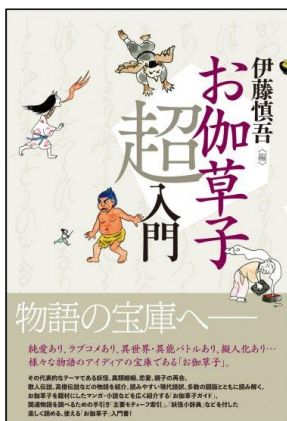
清永 安雄／撮影  
(産業編集センター 2016)



日本最古の歴史書『古事記』。そう聞くと取っつきにくいですが、実は古事記に登場する神々は、恋愛したり、嫉妬に狂ったり、怒ってあばれたり、喧嘩したり。そんな、人間味あふれる愛すべきキャラクターの神々を祀られた神社や、神話のストーリーをわかりやすくフルカラーで紹介した本です。その場所をめぐって、日本の成り立ちや実はポップな神々に思いを馳せてみるのも楽しいですよ♪

## 『お伽草子超入門』

伊藤 慎吾／編  
(勉誠出版 2020)



お伽草子の世界に足を踏み入れようとしている(もしくは、そもそも『お伽草子』とはなんぞやと思っている)、そのあなた。こちらの本はいかがでしょう。お伽草子の基礎知識から主なジャンルとその例話、読みたい話の探し方まで、古典に初めてふれる人や創作のタネを探している人など皆さんの「知りたい」をしっかりサポートしてくれる1冊です。

## 『むかしむかしあるところに、死体がありました。』

青柳 碧人／著  
(双葉社 2019)



浜辺でいじめられていた亀を助けたお礼に竜宮城に連れられた浦島太郎。華やかな宴のあとに事件が！伊勢海老のおいせが首に昆布を巻きつけられて殺害されていた。タイムスリップが事件を解き明かす鍵になる?! おとぎ草子×ミステリーの新感覚が面白い。「一寸法師」や「鶴の恩返し」など5つの物語があります。

## 『日本人なら知っておきたい日本文学』

蛇蔵／著 海野 凧子／著  
(幻冬舎 2011)



作者の海野氏は日本語学校で外国人相手に日本語を教える教師です。日本語の謎について様々な疑問をもつ熱心な外国人生徒のために奮闘した前作『日本人の知らない日本語』は大ベストセラー。「風の谷のナウシカ」のモチーフも古典文学にあるって知ってましたか？外国人も興味を持つ、日本の古典文学の作者や登場人物について、面白いポイントをマンガでわかりやすく解説してくれます。

## 『古典を読んでみましょう』

橋本 治／著  
(筑摩書房 2014)



古典はそれぞれの時代によっていろんな作品があります。古典作品を読もうと思っても、難しそうなおイメージがあり、なかなか一歩が踏み出せないかもしれません。そんな時に、読んでみようかな、こんな考え方もあるのか、と気づかせてくれる、そんな一冊です。

## 『超訳日本の古典 3 枕草子』

加藤 康子／監修  
(学研 Gakken 2008)



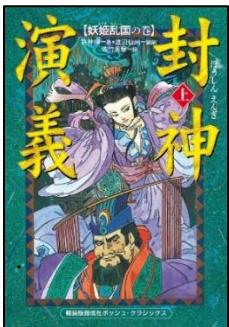
「古典」と言って連想するもののひとつに「枕草子」があります。

教科書などで有名な箇所を読んではいませんが、もう少しじっくり読んでみませんか。

この本ではテーマごとに清少納言が見たり聞いたり感じたりしたことが、まとめられていて平安時代が身近に感じられます。

共感して読める所もたくさんある1冊です。

## 生きチャレのおすすめ本



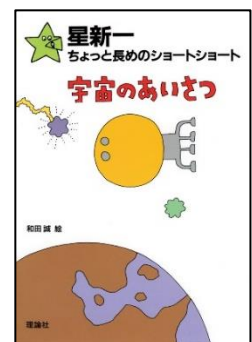
『封神演義 上』 許 仲琳／著 渡辺 仙州／編訳  
佐竹 美保／絵 偕成社 2018

それは今から3000年前の中国。姜子牙(太公望)という男の前に突然神が現れる。新しい世界を創るために戦争をすることに、そして姜子牙を戦力としたいと言う。

戦うシーンが多く、読みやすい話です(P.N S.S)

『宇宙のあいさつ』 星 新一／作 和田 誠／絵 理論社 2005

この本は「ショート」という短い話を集めた短編集です。話を読み進めていくと、予想だにしない驚きの最後が待っています。短い話なのであきずに読めます。ぜひ、ショートよさを味わってみてください(P.N うえっきー)



『ぼくらの七日間戦争』 宗田 理／作 ポプラ社 2007

1学期の終業式の日忽然と姿を消した中学生たち。彼らは、廃工場に立てこもり解放区として、大人たちへ戦いを挑んだ。誘拐事件や市長選挙までも巻き込んだ大人たちとの大戦争。子どもたち本来の姿と夢を描いた物語。

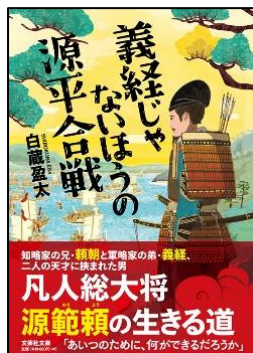
(P.N NK)



# 生きチャレのおすすめ本

『横浜駅 SF』 柘刈 湯葉／著 田中 達之／画 KADOKAWA 2016

冬戦争によって文明がほろんだ世界で、日本は「駅」に支配されていた。エキナカ社会の中で、駅の外でしか暮らせないヒトは男から「18きっぷ」と使命を託されます。人類の未来を懸けた横浜駅 400 キロの旅がはじまります。(P.N F.K)



『義経じゃないほうの源平合戦』 白蔵 盈太／著 文芸社 2022

「鎌倉殿」の源頼朝と天才戦略家の源義経の間に生まれた男、源範頼の戦い方と生き方を描いた文庫本。

「鎌倉殿の十三人」が好きな人なら絶対ハマル! (P.N H.K)

『妖怪アパートの幽雅な日常』 香月 日輪／著 講談社 2008

両親の死をきっかけに自分の世界に閉じこもってしまった主人公が入居したのは「妖怪アパート」の異名を持つアパート。そこで暮らすうちに、主人公の「常識」は崩れることに! (P.N I.T)



## 京都市北図書館

〒603-8214

京都市北区紫野雲林院町 44-1

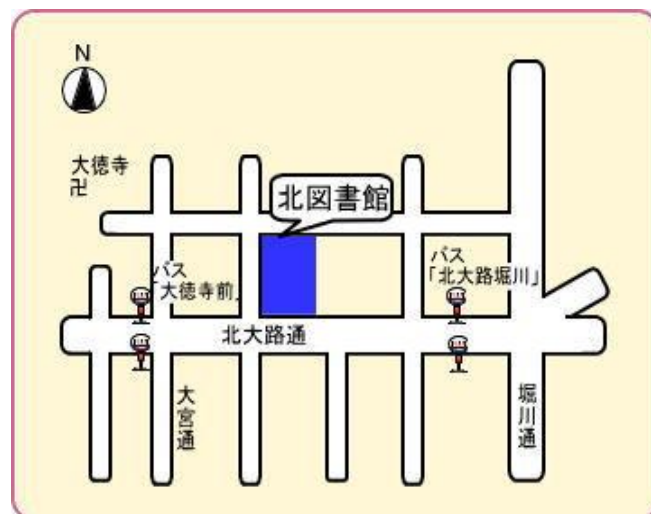
TEL 075-492-8810

開館時間 平日 9:30～19:00

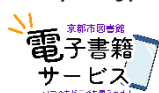
土日祝 9:30～17:00

休館日 毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)

URL <http://www2.kyotocitylib.jp>



(公財) 京都市生涯学習振興財団



★京都市図書館で本を借りるときは図書館カードが必要です。カードの発行には、住所、氏名を確認できるものが必要です。